

谷川岳集中登攀一ノ倉南稜パーティー

メンバー：CL 上坂・鶴田

日 程：9月12日(土) 晴のち曇

山 域：谷川岳・一ノ倉沢 烏帽子沢奥壁南稜

報告者：鶴田幸康

05:30 白毛門登山口駐車場 ― 06:40 一ノ倉沢出合幕営地 ― 07:40 一ノ倉沢出合
― 08:30 テールリッジ ― 09:50 南稜テラス

上坂、山本、鈴木、増子、井上、鶴田。駐車場より参加者全員で幕営地へと歩き出す。計画より30分程遅れての出発となる。新道に入り途中から旧道へと繋ぐ。出合橋から入ってすぐのところで、増水の影響により橋が埋もれるなどの影響が出ていたが、通行は可能なため、そのまま進む。旧道は2月東尾根の時に訪れて以来で夏に通るのは初めて。冬と夏との様子の違いを実感した。幕営地でテントを設営した後に、一ノ倉沢出合へと移動する。通りすがりのハイカーの方に集合写真のシャッターを押してもらい、取付きへと向かう。途中のヒョングリ滝で水量を確認。この日はほぼ普通とのことなので、この量を基準として記憶する。テールリッジでは日差しが強く、厳しい残暑を感じた。南稜テラスでは懸垂で降りてくる3人パーティーと出会った。入れ違いとなり、また後続も見当たらないことから、貸切状態で登れる見通しとなる。



一ノ倉沢出合

1P 目 セカンド

一段上がったところから始まるチムニーでは、奥寄りにランニングが取られていたが窮屈に感じたので、外側にラインを取る。

2P 目 トップ

フェースを登る。視界が広くどこでも登れるように見える。残置が無いとの助言を貰い、ルートファインディングに注意する。しばらく登ると左上に確りした支点を見つけ、そこを目指す。さらに少し上に安定した場所が見えたので、その場所でピッチを切ることにした。

3P 目 セカンド

II 級の草付きを行く。

4P 目 トップ

馬ノ背リッジまで1ピッチで繋ぐことができるようだが、フェースを左上したところから屈曲しており、ロープの流れが悪くなることを考慮してここまでとする。

5P 目 セカンド

ピッチを分けたことで馬ノ背リッジまで繋ぐかたちとなる。しかしロープが僅かに足らず、最後の垂壁手前までで終了。

6P 目 トップ

垂壁下に出る。

7P 目 トップ

最終ピッチで核心部となる。出だしは軽快だったが、抜ける直前で一手 A0 してしまった。

14:00 終了点 — 16:00 国境稜線 — 16:10 一ノ倉岳
— 17:20 オキノ耳 — 17:30 トマの耳 — 17:40 谷川
岳肩の小屋 — 18:50 巖剛新道 — 20:30 旧道
— 21:00 一ノ倉沢出合幕営地

北側となる右手に衝立岩中央稜、左手には一ノ倉沢 3 ルンゼが見える位置関係から、登攀中も両パーティーが見え、またコールも聞こえていたのだが、急に静かになったように感じる。中央稜の方は登り終えたのであろう。前半で手間取っていた 3 ルンゼは敗退したのかも知れないと思ったが、下方に登っている姿を確認した。このペースだとビバークになるのではないかと心配する。ガスが出始めたため、小休止した後に行動を再開する。途中の岩場では、念のためロープを出す。シューズは履き替えずに行けると判断した。続く藪漕ぎではモチベーションを保つことを心掛けた。一度、藪の先で蛇と遭遇して肝を冷やした。稜線へ抜けた時には思わず万歳をしてしまった。一ノ倉岳が近いのでそこまで行ってから休憩を取り、そして下山。てっきり中芝新道で降りるのかと思いきや、巖剛新道ルートとの話。これをやらないと登ったことにならないらしい。とはいえ藪漕ぎが終わって、更に山頂経由ということでモチベーションは充分。あとは時間との勝負となる。オキノ耳へ向かう途中で、稜線へ抜ける登攀者と思われる声が聞こえた。しかし、ガスが濃く声は聞こえるけど姿は見えない。視界が悪く困難している様子だったので、こっちですよー、もう少し、などと声を掛けながら歩くとようやく出会うことができた。若者と年配の方の 2 人パーティー。まだまだ余力のある若者と疲れが見える年配の方。この後、下まで降りるか小屋泊とするかで相談となるようだ。山頂では記念写真を撮るが、ガスもあり日が暮れ始めているので休憩はせずに先を急ぐ。肩の小屋でつまみを買って足す。巖剛新道に入った頃には完全に日が落ちてヘッドランプで下山となった。ところが自分のヘッドランプがバッテリー切れの兆候を見せ始める。どうやら知らない内にスイッチが入って消費していたようだ。予備として充電用のバッテリーを持参していたのだが、手違いで幕営地へ置いてきてしまったらしい。騙し騙し進むも遂に完全に切れてしまい、予備ヘッドランプを借りることに。今回一番の反省点となった。無線交信で中央稜パーティーは幕営地へ到着済み。3 ルンゼパーティーはビバークすることの確認が取れた。下山ペースは昭文社タイムの半分位。足元は露のためかウェットコンディションに変わる。幾度となく滑りながら、ようやく旧道へと抜けて、本日二度目の万歳をした。



南稜終了点より

9/13(日) 曇

一ノ倉尾根レリーフ登山道整備

パーティー 上坂、増子、井上、鶴田

この日はビバーク組の下山を確認するまで待機となり、その時間を利用して一ノ倉尾根までレリーフの登山道を整備することとなった。11:00 にレリーフに到着。

13:00 には幕営地へ戻り、3 ルンゼパーティと合流。撤収をした後、新道ルートで白毛門登山口駐車場へと戻った。



一ノ倉尾根レリーフ

谷川岳集中登攀衝立岩中央稜パーティー

メンバー:CL 井上・増子

日 程: 9 月 12 日(土) 晴のち曇

山 域: 谷川岳・一ノ倉沢 衝立岩中央稜

報告者: 増子

(4:30)起床～(5:30)白毛門駐車場出発～(7:30)一ノ倉沢入渓～(13:00)衝立の頭～(17:30)行動終了

◆アプローチ(7:30～)

一ノ倉沢出合から入渓。道を覚えるために増子が先頭で行っていましたが、沢筋を登れなくなり、やぶに入ったところで見事に道を間違えてしまいました。地形図は持ってきていても、結局どこがアプローチルートか分かっておらず。

その後、他のパーティーと懸垂下降点で合流し、晴天のテールリッジを汗だくになりながら登りました。

◆ルート(8:30?～)

取付点に着き、他のパーティーを見送ったあと、登攀を開始します。デポしている荷物の量から、少なくとも2パーティーは入っていそうでした。

1P 目 増子リード。特に難しいところもなく快適。登り切ったところに支点があったが、まだロープに余裕があったのでそのまま進むと、その先に良い場所がなく、トラバース途中の不安定な場所で支点をとることになった。ルート研究不足。

2P 目 増子リード。簡単な泥付きルンゼのはずが、難しい。あとで、文献等を見直してみたところ、トラバース点を見逃してそのまま直登していた。やはり、ルート研究不足。

3P 目 増子リード。登ってすぐにトラバースして第2フェースに復帰。おそらく、本来の3P目終了点。

4P 目 増子リード。フェースからチムニーに入っていく。腐ったA0用のスリングが多数あったが、怖いので利用し

なかった。チムニーの落ち口からの脱出が本日の核心部分。落ち口付近にカムをとって落ち着いてフリーでクリア。

5P 目 井上さんリード。草付きをどんどん登っていただく。

6P 目 増子リード。ロープの流れが悪くなりそうだったので、早めに支点をとる。

7P 目 井上さんリード。井上さんが登り切ったところで懸垂下降してきたパーティーとすれ違う。

8P 目 増子リード。最終ピッチはガレガレの岩場。終了点には懸垂下降しようとしているパーティーに使われていたので、少し手前の灌木でビレイ。井上さんが登り終わるのを待っていただく。その後、稜線に移動する際に落石をしてしまう。ガレ場ではもっと慎重にならねば。

◆下降(13:00)

他に入っていた3パーティーは同ルート下降していましたが、私たちは北稜を下降しました。

6月に凹状岩壁を登った際の下降時に道間違えをしてしまったので、今度こそは、と気合を入れていました。

1P～3P 目 増子先頭で懸垂下降。井上さんがロープダウンしている間に、支点にロープを通しておく、懸垂中にロープ溜まっていたときは上にいるうちにロープを落とすようにする、等、基本を思い出しながら、降りていく。

4P 目 ささやぶの中の灌木を支点に降りるポイント。

前回間違えたところなので、降りすぎないように、左岸を気にしながら降りて行くと、懸垂用のロープがかかったままの支点を発見。だいぶ早いとは思ったが、残置してあるロープが気になったのと、5P目の支点の木がグラグラだったことを覚えていたため、誰かがここに支点を作ったのだろう、と、ここで切ることとする。(あとで分かったが、左岸を気にしすぎて、ルートから外れていた様子。)残置ロープは10m程度のダブルロープ。FIXしているわけでもなく、なんで残置してあるのか謎。ただ、その先のルートは藪の中に突っ込むわけでもなかったの、降りてみることにする。

5P 目 出だしは空中懸垂。下に降りると、スラブ上の草付きのような感じ。懸垂下降する分には問題ない。そのまま降りていき、右岸の灌木にかなり古い捨て縄、ビナをいくつか発見。さらに下ると、いつもの空中懸垂下降の支点が見える位置まで下降。この先はロープが下まで届かない&支点もなさそうだったため、少し登り返して、目安を付けていた灌木でセルフビレイをとる。

ここで、ロープを引っ張ってみると全く引けない。左岸側に移動して引っ張ってみると少しだけ動く。井上さんに声をかけると、ロープが一部噛んでいる、とのことで、そこを直してもらい、なんとか引ける状態に。

ただ、まだ重いので、「右岸に登れば、いつもの懸垂下降支点に合流できるので、自分はそこまで行って待機。井上さんはロープアップして、通常ルートで下降してきてもらえばいいのでは？」と考えてみましたが、普通やらないような行為で、伝えるのが難しいし、もし合流できなかつたらロープ無しで孤立することになるので、ヤメにして、降りてきていただいた。そして、ロープを引っ張ってみると、やっぱり引けない。仕方ないので、ロープの流れが良くなりそうな左岸側に少し登り返ししつつトラバース。立派な灌木までたどり着いたところで、やっとロープが動き一安心。ここだけで一時間以上ロス。

6P 目 懸垂途中に、だいぶ腐った支点があり、使いたくないな、と思いながら、ロープが最後まで届かなさそうだったので、ひとまずここで切って、判断を仰ぐことに。

井上さんに確認していただき、まあ、降りられるだろう、ということで、そのまま先に降りていただく。

ここで、増子は支点からロープを引っ張れるようにと、長めのスリングをロープにかけて引っ張れるようにした

が、井上さんの懸垂途中にロープが屈曲してしまう、ということで、いったんはずし、降りていただく。メインロープは振ってもらえば簡単に手が届くようになるだろう、と安易に考えていたが、これが間違いで、増子がメインロープに届かない状態になってしまう。(腐った支点で孤立。)セルフを長めのスリングに変えて、トラバースして無事ロープを確保出来たが、大きな判断ミスとかなり危険な状態だったと反省。(ロープを取りに行く前に落ちたら、支点はたぶん吹っ飛んで、そのまま滑落したのではないかと思う。) 6P 目終了後は、少しくライムダウンして、通常ルート(空中懸垂下降終了地点)に合流し、略奪点～衝立前沢を下降。

衝立前沢では、途中気の緩みと疲れからか、岩の上の小枝を踏んで滑って背中から 1m 位落ちてしまい、最後の懸垂下降点ではまたもロープがスタックしてしまうなど、最後まで気が抜けない下山となった。

◆感想

憧れの響きを持っていた衝立岩に登れたことはうれしかったです。が、下山が核心となってしまいました。「何が起こるか分からない。そして、起こった事象に対して、どう対処していくか。」の訓練にはなりましたが、そもそも、何も起こさないようにすることが前提だと思いますので、事前のルート研究や、早めのリスクヘッジなど、大事にすべきことを間違えないようにしたいと思います。

谷川岳集中登攀一ノ倉沢三ルンゼパーティー

メンバー:CL 山本・鈴木

日 程: 9 月 12 日(土)～13 日(日)

山 域: 谷川岳・一ノ倉沢 三ルンゼ

報告者: 鈴木大地

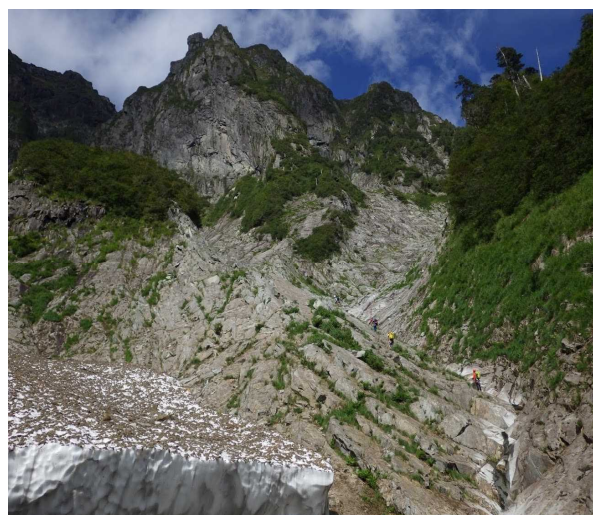
9/12 出合(8:00) → 南稜テラス(10:00)

→ 本谷バンド(10:30) → F3 上(16:00)

→ 上部草付にてビバーク(20:00)

9/13 ビバーク地出発(6:00) → 国境稜線(7:30)

→ 厳剛新道経由 → 出合 BC(11:30)



テールリッジと衝立岩

出合で中央稜隊、南稜隊と記念撮影を撮って出発。沢通しではなく、3 隊合同で巻き道ルートを使用。ヒョングリの滝への懸垂は、中央稜隊のロープをお借りする。今年は懸垂で降り立った所のすぐ上にまでブロックが残っていたので、当然沢底では待っては危険だ。その後は、暑さと寝不足でへろへろになりながら南稜テラスへ。南稜テラスから本谷バンドへは、初めての場所なので、一応ロープを出しながら進む。本谷 F 滝前は広い河原になっており、ここでフラットソールに履き替える。

1P 目 (Ⅲ): 鈴木リード

どこでも登れそう。水流の左から取付き、F 滝を越える。支点は少ない。30m 程。

2P 目 (Ⅲ): 山本リード

本谷 F 1 滝左のブッシュだらけの凹角を登る。50m いっぱい出す。

3P 目 (Ⅲ) : 鈴木リード

脆いバンドを右上していくと、左から 3 ルンゼが入り込んでくるので、これを横断してから 3 ルンゼに入る。3 ルンゼ F 1 の右壁を登る。残置ハーケンは少なく、どれも信用もできない。しっかりとビレイ点もない。

4P 目 (Ⅱ) : 山本リード

どこでも登れそうなスラブ。一度間違えて左壁に行き過ぎてしまったので、懸垂で下りる。正解は、とにかく 3 ルンゼというぐらいなので沢通し。F 2 滝手前まで。

5P 目 (Ⅳ) : 鈴木リード

連日の雨で、しっかり水が流れている。おまけにヌルヌル。水流左から登る。下部はほとんど支点がなく、緊張する。一本ハーケンを打ちこむ。上部はそこそこ残置ハーケンが出てくるし、ナッツやエイリアンも決められる。

6P 目 (Ⅱ) : 山本リード

易しいスラブにロープを伸ばし、F 3 滝手前まで。

7P 目 (Ⅳ) : 鈴木リード

ここまで来ると、さすがに水流はない。しかし正面のチムニーは面白いくらいにヌルヌルしているので、右のフェースから取付く。中間部で左壁に移る。大きめのカムが使えた。やはりここもヌルヌルで黒光りしていた。

F 3 から先は易しいスラブなので、どんどんロープを伸ばす。所々ランナーを取りながらのコンテで進み、時間を短縮。上部岩壁に近付いたところから、非常に滑りやすい岩質になり、易しいスラブだが、緊張する。絶対に確保すべき場所である。F 3 から上は所々にしか残置ハーケンはない。17 時頃リッジ上の広場に出て、一旦ロープ解除。何とか日没までに稜線に出られそう。この先、踏み跡が不明瞭になるが、とにかく上を目指す。ところが、夕闇と共に濃霧となってしまった……。ヘッデンをつけても、ガスで光が拡散してしまい、足元しか見えない始末。おまけに濡れたツルツルの草付で、ヤバい感じ。ロープを出して、ビバーク地を探しながら進む。山本さんが素晴らしいビバーク適地を見つけて、ロープで確保して快適なビバーク。今我々はどの辺にいるのだろうか、視界が悪すぎて、何だか不安な夜である。

翌朝は一旦視界が効いた。とにかく稜線を目指して登る。傾斜が強い所もあり、ロープは出したまま。結局ビバーク地から 2 P 目で国境稜線に飛び出した。その後は厳剛新道経由で出合へ下山。

◆感想

3 ルンゼは、それほど難しい所は出てこないが、濡れた岩場に少ない支点、上部の草付きと、緊張を強いられる山のクライミングという感じだった。特に支点は少ないし、あったとしても、簡単な力で抜けたり、折れるような支点ばかりだった。しかしナッツ、カム、ハーケンをセットしながら登れるのでとても楽しかった。何よりヒョッコリ国境稜線に飛び出す感じがとても素晴らしい。金曜夜行で辛い所だが、もう少し早く出られるようにしたい。来年はぜひ 2 ルンゼを登りたい。

【統括】：上坂

合宿が終わる度に課題・反省が繰り返されるが、今回は少し傾向が異なる。

合宿出発当日にドタキャン2名。別にドタキャンが悪いということではない。急な仕事や体調不良も出てくるだろう。その連絡の遅さである。出発の金曜は当然工作中である。16時や19時以降に連絡が来ると大幅な変更作業に追われる。

今後は、当日15時までに判断し連絡を徹底してもらうこととしたい。

気持ちを切り替えて合宿内容に戻るが、3ルンゼの山本・鈴木のパークが起こるも事故が無く安心した。ちょうど北関東・東北地方では大雨による洪水が発生しており、痛ましいほどでヘリによる救助活動が続いていた。そういう状況の中では事故は避けなければならない。そのため、無線機で山本・鈴木パーティーの安否情報が取れていたとは言え、翌日の山行も待機とした。

自分の中で合宿時に大切にしていることは、安全かつ山行を成功させることである。そのためには、山城・ルート・参加メンバーを元にパーティーを組み合わせる。次のステップとなれるようにそのパーティーに課題を与える。具体的には新人には全体の山城の把握や経験を積んでもらい、中堅には更なるステップの課題をこなしてもらう。

今回は急な変更となってしまう、各隊にも迷惑を掛けたことは申し訳なかった。

今後も継続的に谷川集中を行うことは会の存在意義としても重要である。アルパインの代表格でもある谷川岳の経験やさらなるルート達成を目指してしっかりと目標意識を持って望んでいこう。